

銅 建値4万円下げ、113万円に反落 方向感定まらず

JX金属は4日、銅建値を前回(1日)比1^キあたり40円下げの1,130円に改定した。6月の月間推定平均は1,135.7円。ドル高の流れから海外銅市況が大幅安となり、国内建値は前月末の水準に戻り安となった。これを受け、銅スクラップの市中価格は28~35円が値下がりした。

現地3日のLME銅価格(セツルメント)は前日比150.5^{ドル}安の9,967^{ドル}に大幅続落し、節目の1万^{ドル}を割り込んだ。米国の好調な経済指標を受けてインフレ懸念が強まり長期金利が上昇。ドルも連れ高となり投資家心理が悪化し、LMEも全面安の展開となった。

一方、4日の為替TTSは1^{ドル}=111.28円で、月初の建値改定時に比べ0.87円の円安水準となった。

銅建値の改定を受け、黄銅削り粉建値は28円下げの789円に反落。銅スクラップの市中実勢価格

(関西地区)は1号銅線が985~995円、上銅新切が955~965円、並銅が875~885円、下銅が855~865円、黄銅削り粉は670~680円見当に値下がりした。

伸銅品需要の回復基調でメーカー各社の生産は好調に推移するが、直近の積極調達もあり足元は原料の確保に一定の目途が付きつつあるようだ。ただ、発生薄は変わらずで、市中扱い筋らは先行きの荷繰りに警戒感を強めたまま。ある問屋筋は「この先はモノ不足がさらに進むだろう。欲しい品種は今のうちに高値を出して確保せざるを得ない」と語る。

非鉄地金建値推移 (円/kg)

	銅	亜鉛	鉛
3月平均	1,022.1	354.2	276.4
4月平均	1,044.5	358.2	277.4
5月平均	1,156.8	376.0	299.3
5月12日		379	300
13日	1,190		
17日	1,170	373	
18日	1,150		
24日	1,130		
26日		379	
6月1日	1,170	388	300
4日	1,130	379	

LME相場、他(現地3日)

	3日前場	前日比(円/t)	在庫量	前日比	前月平均
銅	9,967.00	-150.50	125,450	2,100	10,183.97
鉛	2,193.50	-35.00	94,950	-300	2,185.92
亜鉛	2,977.50	-84.00	277,125	1,100	2,970.29
アルミ	2,386.50	-55.50	1,674,475	-9,200	2,433.84
ニッケル	17,945.00	-188.00	243,162	-468	17,605.40
錫	32,489.00	-461.00	1,375	500	32,524.30
金(NY)	1,873.30	-36.60	-	-	1,851.18
原油(NY)	68.81	-0.02	-	-	65.15
為替TTS(円/ドル)	111.28	0.69	-	-	110.20

※金は1troy ounceあたり※原油は1バレルあたりの21年7月期※為替は日本時間5月4日のTTS

亜鉛建値 9千円下げの37万9千円に反落

三井金属は4日、亜鉛建値を前回(1日)比1^キあたり9円下げの379円に改定した。6月の月間推定平均は

380.2円。建値の下落を受け、市中の亜鉛スクラップは4~6円が値下がりした。

6月の銅・アルミスクラップ市況見通し

非鉄金属リサイクル連合会橋本健一郎会長(橋本アルミ取締役)



6月のLMEと為替は、米国の経済と景気対策及び中国の景気動向に左右されそうだ。米国経済と景気対策については、5月末にバイデン大統領が6兆^{ドル}(約659兆円)規模の予算案を発表した。経済や国民生活における連邦政府の役割を拡大させる方針で、イン

フラや公衆衛生、教育への支出を大幅に増やす半面、企業や富裕層への増税を求める内容となっており、米景気の回復傾向は続くとしている。

一方、中国の景気動向については、気掛かりな面もある。中国政府による原材料高騰への取り締まり強化策や、5月の中国公式購買担当者景況指数が製造業で51.0と前月の51.1からわずかに低下したが、こちらも原材料の高騰が影響しているものと思われる。そのため、今以上の価格高騰には心理的ブレーキが掛かると見ている。

それらを踏まえ、6月のLME銅価格(セツルメント)は1万~1万1000^{ドル}、銅建値は115~125万円/トン程度。LMEアルミ価格は2,400~2,600^{ドル}のレンジで、スクラップ購買価格は前5月最終価格より据え置きから+5円程度とそれぞれ予測している。また、為替は1^{ドル}=107~110円(1カ月間TTM)程度を想定している。

スクラップの景況感としては、銅スクラップについては、流通在庫が銅建値118万円の高値安定から一転113万円まで急落したタイミングで放出されたため、ある程度余裕がある。需要面でも半導体不足に伴う自動車需要の減少は結果的に見受けられず生産は急増傾向にあるが、メーカー各社はスポット買いに徹しており、需給は安定気味と言える。アルミスクラップについては、LMEアルミ価格が2,500^{ドル}近辺で高止まりしていたが2,300^{ドル}台まで一旦下落したことから在庫は放出され、玉不足は多少緩和されたとしている。ただ、メーカー各社の販売は引き続き堅調で材料不足が続くうえ、国際相場の高騰から輸入玉も減少したままだ。メーカー各社の在庫は薄いと言える。